

・雨でも休まず、209回、210回、・

「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・定例活動1：3月 3日（第一土曜日）：小原本陣の森・技術向上・担い手育成の森
*参加費400円。弁当持参。車相乗りで行く。
 - ・定例活動2：3月18日（第三日曜日）：若柳嵐山の森・里山交流・多様な森活動
*参加費：会員400円、非会員700円、学生500、体験学校1000円
- ・初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自、森へ。
 - ・服装：汚れても良い服装、着替え、長袖・長ズボン・滑らない足元
 - ・持参：なるべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、食器（碗・箸）、飲料水
- * 注意事項：危険管理・救急体制：森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

もっと、地に足の付いた活動を・・・・運営会。

2～3歳児の家族連れから70歳過ぎの高齢者まで年齢・性別・経歴・国籍の関係なく森に大体、60～80人ばかりが毎月の定例活動日に集まってくる。不定期に参加する人を入れれば300人程度の規模になっている。活動の当初は、停年退職後の人々が集まる傾向にあったが今は、高校生・大学生が半数を占める。平均年齢は35～40歳くらいだろうか。

参加理由は千差万別、大体の傾向として高齢者は、健康維持と森の意味を考えて、現役の勤労者は組織の縛りから開放されるために、若い人は自然から真実を求めるために、森林の多様性同様に、参加の動機は多種多様な人々による森林ボランティア活動である。

雨でも休まず活動は10年目に入った。NPO活動は、自由で柔軟な発想、敏速な行動が基本であるが、昨年9月、「組織の見直し、FSCの意味を確認しよう」と話し合った。「もっと地に足の着いた活動を・・・」との命題が持ち上がって、毎月第三日曜日の活動終了後「運営会議」が行われるようになった。森林の保全・再生10年目の活動に入った当会・「NPO 緑のダム北相模」の新しい課題である。

これをどう解決できるかが試されているが、理論より「頭から藪に突っ込む実践から回答を生み出す」当会だから解決すると確信している。これが解決できた時に当会は、別の姿になって社会貢献が出来るだろう。

活動報告 1 : 小原本陣の森 : 技術向上の森 : 2月 3日 (第一土曜日) 報告 山本晶子

枝打ち班・間伐材卸班は、今回もフル回転!、約 25 名の参加。

何て事だ、3月いっぱい終わるかどうかが、心配されていた枝打ちが終了してしまいました!。臨時活動の成果もあって、「次回にしておいた方が良くであろう材を倒す程度」の捗りよう。シューターで間伐材を下ろすのも、順調な運び出しようで次回は、シューターが外せるとの事。何か、すごいな。「3月中に終わるの?」と押せ押せだった内容が、あっと言う間に終わってしまいそうなんですもの。参加しているメンバーのパワーに脱帽。

標高の低い場所にある基地(集合場所)より、枝打ちに登った山の中の方が、日当たりが良く暖かいよ、なんて声を聞きながら、お昼は、下山してきたメンバーと温ったか汁物を。今回は、丸いものづくし!と炊事班から。里芋と肉団子を入れたら、何時ものことで、またまた量が多くなっちゃった。そして、今回も2杯以上のノルマが発生。

お腹いっぱいになると、午後の作業、上がりたくなくなっちゃうんだよなあ。そこで……

「炊事班にもの申す」、具材が多けりゃ良いもんじゃない。適度ってモノがあるでしょ。適度ってモノが!、良く考えてよ。

「炊事班からモノ申す」そんな事言うけどさ、なんだかんだ完食しちゃうじゃないのお。

「炊事班にモノ申す」そうだった……。寒いからさ、暖かいもの欲しいしさ、屋外だから美味しく感じちゃうしさ……。でも、もう少し減らしてもいいんじゃない?

「炊事班からモノ申す」……。うん、わかった。気をつけるよ。適度な量で愛情たっぷり入れちゃうからね。まかせとけ!。

ノルマを課する事無く、みんなが満足できる量をつくる事、それが、炊事班の課題となりました。

* お昼時、山に残ったメンバーには、作業終了後に暖め直して食べてもらいました。終礼では鬼が登場。節分の豆まきをして福を呼ぶ。年の数だけ豆を食べる慣わしですが、自分の年齢を忘れてしまうくらい元気なメンバーなので、ま、一人30粒程度食べたと報告しておきます。



枝打ち・最後の追い込み



お面被らなくても良いよ~と言われた
この人・誰。

「雨の日も、また、楽し！」

前夜からの雨も降り続けている。「午後は止む」の予報で雨脚は少しずつ弱まってきているが午前中・雨。足元に気を付ける様にと注意を受けて夫々に活動開始。森中は案外、濡れない。午後は止んで晴れ間が顔を出した。参加57名、何時もより少なめ。

- ・ **森林整備班** : 水源沢源流の蔓切り・林床整理。初参加の女性軍が先頭切ったの勇姿。

「ドロドロ・グチャグチャ、泥んこ、作業後の私の顔も同様でした」・・・藤川

「泥んこになって、濡れながらの作業も楽しいものでした。盲目滅法に藪に取り組んだけど、良かった！」

・・・三谷 (初参加)

水源橋の補修は、滑らないよう横桟付け作業。バッテリーがあがって動かなくなって半分ほどの出来。

- ・ **望星の森** : 4月の植樹のための地こしらえ。富沢さん・川田さん、斉藤さんのご指導で望星高校生たちが20人ほどで取り組んだ。初参加者は、間伐を体験。何時ものベースキャンプを華やかにしてくれる若者たち。
- ・ **お花畑班** : バラの枝止め、古いフェンスの取り外し、片付け、掃除など。雨も何時しか止み、丸茂さんの曰く、「不思議なことにここ (嵐山) では、雨が上がるんだよなあ」。同感!。みんなのオーラか! ?。
- ・ **植生調査班** : 林さんチームは、学生連合 NOVA と朝比奈さん等、桜井先生も一緒に嵐山の植生を調査。葉っぱや木の枝の香りを一枚・一本、嗅ぎつつ生態系の話。多様な生態系を残しているこの森についてもっと知りたい (麻布大 : 大平さん。) 初参加の朝比奈さんの感想は「何時も、森の中にいたい」

お昼は差し入れの奈良付けに「山本+佐伯+石村ママ」の特製の粕汁。

食後、桜井先生と林さんより「モニタリング調査」について今後、「森についてこんなことを調べたい」という提案を出してくれるようにとの要望があった。

活動終了後の運営会は、2月の寒空の下、薄暗くなるまで熱心な討議。雨の日も休まず、パワフルな2月定例活動の一日なり。



水源沢源流上部のやぶ刈



望星の森 : 植樹準備のための地拵え

*** モニタリング：同日お昼休みを活用して打ち合わせ。**

モニタリングはFSCの観察事項として記載されている。以下は、桜井先生から教えて頂いたものだ。

モニタリングとは、一言で言えば、この森の変化を「継続的に観測・監視する」こと、しつづけることです。手入れした森は、こんな風になりました、というような手入れの効果を樹木・鳥獣・昆虫などの種類や数などの変化で説明できる方法を見つけ出して、それを豊穡の森林にするための技術にして行こうするのです。そのためにまず、現状を調べることから始めます。



- 1、調査の林分の確定と毎木調査
- 2、調査林分を構成する植生調査、動物調査
- 3、これまで行って来た調査資料と比較して、この間の変化を分析して評価できる事実をさがしだして評価を試行する。
- 4、評価は人によって異なるので、その分析を行う。
- 5、今後、行うべき調査、観測項目を整理する。

その他、地主さんの意向を斟酌して林班・林小班ごとの立木調査を行なうが、直径と樹高を毎木調査することにより、立ち木の成長や込み具合が分かり森林の管理方向が明らかになります。森林をどのような方向に管理して行くか決めるのを森林計画と言います。学生の卒論課題にもなりますから、緑のダムメンバーと作業に参加して行きたいと思います。

*** 定例運営会：同日15時30分から**

雨は上がったと言うものの真冬2月の戸外は、寒いに決まっている。その寒空の下、真剣・熱心な14・5人が参加した。議論の中心課題は、事務局石村の先行する理想と現実的な活動が乖離しすぎている、これをどう、融合させるか。理想と現実の間には、必ずこのような軋轢を生むものだが、寒さに震えながら熱心に意見を交換する姿は、間違いなく森仲間の真摯な森林取り組みの姿であり、活動の成長の証だと思う。本当にこれは凄いと思う。時間は、掛かるだろうが解決の途は必ずある。

議論は議論として、運営会議参加の殆ど全員が集う恒例の「カドヤ会議（駅前カド屋食堂）」での熱燗は、五臓六腑に染み渡って旨かった。

その他の活動

1、臨時運営会：1月28日（第四日曜日）相模湖駅前・桂北公民館

2月18日（第三日曜日）運営会と前後するが、1月28日は、折角の休みなのに遠くは埼玉から3時間掛けてヤマちゃん等、14人が集まった。議題は主に「1、一般的な検討事項 2、現在推進中の関連事業の現状分析」についてであった。真剣で妥協を許さない話し合いでもお互いの気持ちを尊重するハートは充分で、課題が膨大で時間切れになって2月の森の運営会に持ち越すことに成ったが、納得のできる結果に繋がりがつつある。議論が議論を呼ぶことになり活動の中に軋轢が出てくることの無い様にだけはして行きたい。楽しく無けりゃ続かないことは明白なのだから。

カンちゃんこと小松完仲間が胃がんの大成功の手術を受けて無事、退院したとの報告を受けて「では、カンちゃんが出てきた日のお昼は、全員で **重湯** で退院祝いをしましょう」。こんな想いで集まる仲間なのだ。

2、古道：JR東日本八王子支社訪問：2月9日

相模原市・観光振興課柳川課長からのお誘いで、古道事務局・齋藤さんと連れ立って八王子支社・販促課の中村副課長を訪ねた。昨年9月、JRは10万枚の古道マップを刷ってくれたがタチマチになくなった。このマップにはJR相模湖駅が基点で肝心の小仏峠、小原本陣が入っていない。八王子支社は、今年4月に第3刷目を刷る計画だそうで「JR高尾駅を基点にして“小仏峠・小原本陣・小原の郷”を入れて欲しい」と言うお願いにだ。中村副課長は、聞き入れて下さった。

関連して、本物を残したい・・・ 分断古道の接続 藤野郷土資料館

3年前、当時の溝口相模湖町長に同行をお願いして国交省相武事務所の森戸所長を訪ねて、古道復活に協力して欲しいと申し入れた。

古道をそのまま使った20号線の、特に藤野域内は道路が狭くて危険だから何とかして欲しい。また、相模湖町の鉄道と高速道路で分断された「小原～底沢間、約2*」も復元したいと申し入れた。

先月の「小原活性化協議会」に出席された相武事務所の絹川副所長によると、藤野域内20号線・甲州街道沿いの危険な箇所と吉野橋に歩道をつける。取り壊される予定であった「藤野郷土資料館」と国道沿いにある約200年以上前に建てた、「崩れかかっている土蔵」をセットバック（後ろにずらす工事）してくれることになったそうだ。JRも国交省も粹な計らいをしてくれるものだ嬉しい。また、貝沢一里塚復元を神奈川県に頼みに



行ったら「説明版設置」の許可が頂けた。

JR東日本や国交省がこんな柔軟な対応してくれるなら「小原～底沢間」の藪の中に4カ所の古道痕跡を見つけたので「NPOにはチョッと難しい崖崩れした2ヶ所だけを何とか協力して欲しい」とお願いに行きたい。

この箇所は今は、中央高速道路公団の管轄になってしまっているのですが森戸所長は、“公団に話をつないであげましょう”と言って下さっている。痕跡のある4カ所は、各地の古道仲間を募って修復することも出来ようが、素人には手に負えない2ヶ所が繋がれば相模湖域内は全部、古道が歩けるようになる。



やぶの中からこんなにハッキリした古道跡が突然、現れる。

関連して、小仏峠～下山、底沢まで・・・

「JR東日本八王子支社」との交渉に同行を頼まれた柳川さんから電話があった。

「3月4日の日曜日、小仏峠から下山しながら私もボランティアで道普請をしたいが、ごーしませんか？

私の課員も何人か参加してくれそうです。相模湖町の長谷川課長も来るそうです」

何だって、この方はこんなに熱心なんだろう。ところが石村として、こんなの好きだが、どうしても先約があってお断りせざるを得ず。

・・・という訳で参加できるお仲間は、3月4日（第1日曜日）9時、小原の郷集合でご協力をお願いします。



湖底に沈んだ小狼橋の後に出来た新狼橋は、橋が落ちて橋脚基礎部分だけ残っている。いずれ、ここも復旧したい。

・・・藤野町

3、来所：八王子商工会議所（高橋地域振興部長）・国交省相武事務所（今長調査役）から、
・・・甲州夢街道と協働の申し入れを受けた。：2月13日（火）

八王子商工会議所は、「府中～八王子市～相模湖～藤野間」を「甲州夢街道」と名付けて地域振興に取り組んでいる。

これを国交省相武事務所が支援している。13日、高橋部長と今長調査役が石村事務所にお見えになって協働の内容を話し合った。八王子市では毎年10月、藤野を出発点にして八王子までとか、府中を出発点にして八王子までとかを「甲州夢街道」として歴史を訪ねるウォーキングをしているとの事である。大体、250から300人の規模だそうである。

相模原市が津久井四町と合併して観光振興に力を入れており、JR東日本も「古道マップ」を作っているから、八王子商工会議所にしても提携した方が良く判断した。「甲州古道」の齊藤さんに対応してもらった。



その後、高橋部長と今長調査役から電話があって、どのような形で進めるか打ち合わせしたいとの事であった。また、「小原～底沢間・分断古道」の話も出た。「甲州夢街道」の人々とも力を合わせれば、可能になるかも知れない。やはり、継続すれば、いろんな事が形になる。

活動アンケート第9回：

FSCは、問題があれば解決することを求めている。208件のアンケートに対して38項目、58件の回答が得られた。一昨年11月から今年2月までに全般的なこと(組織・資金・情報公開・社会的責任・森づくり計画・作業・作業道・間伐材管理・化学薬品)について解答してきた。今回は、森林管理の内、養蜂の質問に答える。回答に対する疑問・意見・反論、忌憚のない異論を提供されたい。(この回答欄は、認証機関SGSの観察条件になっています)

質 問：養蜂プロジェクトは今は、どのように進んでいるでしょうか。地域の緑化との関係で関心があります。

回 答：草木の花の受粉を促進してくれれば森の生態系が豊かになると言う理由で養蜂を始めた西さんが会社での部署が変わって出来なくなりました。今は黒川将和さんが野生の日本蜜蜂に絞り込んでお世話をしてくれています。蜂蜜を採取するために飼う西洋蜜蜂は、大敵・黄スズメバチに一对一で向かっていくので全滅されることが多いのですが、日本蜜蜂は集団で防御するから黄色スズメバチは、それを知っていて襲ってこないそうです。

黄色スズメバチは、人間にとっても危険だと言います。一度刺されると抗体が出来て、次に刺されると命に関わることになるそうです。黒い動くものを狙うから、活発に活動する6月～10月頃までは白っぽい衣類でないといけません。今は、黒川さんが一人で世話をしていますのでプロジェクトとは、言えないでしょうが。どなたかご一緒してくれれば嬉しいのですが。

セッセと健気に働く日本蜜蜂の姿は、実にかわいいものです。黒川さんは、上手く冬を越せるかどうか心配だと言っています。去年は、上手く行って3群ありました。

木を使うこと 森を守ること：12

文責 住まい工房 なお(株)

タイトルにあるように、「木を使うことが森を守ること」につながります。それは森の活性化になるからです。人間の体も新陳代謝を繰り返すことで命をつなげています。でも、年老いていくとその速度が遅くなり、古いものがだんだん貯まりいずれは死んでいきます。森もそうです。年老いた木をそのままにしておく材として使えなくなり、新しい木の成長を妨げます。その積み重ねが森に広がります

それは森だけでなく命の源「水」に影響が出ます。以前にも書いたと思いますが、木を伐ることが自然の崩壊につながると思っている人が多いのです。日本の山は、人の手が入った人工林が沢山あります。人の手が入った山はずっと人が面倒を見ていかないと駄目なのです。ここを誤解している人が多いので皆伐などをやると非難ごうごうです。計画的に行なえば問題は無いのです。極端な言い方ですが、日本の人工林には消費期限ぎりぎりの山が沢山あります。戦後、植林した木が建築材として出番を待っている状態です。しかし、多くのエネルギーをかけて外国の山を皆伐して日本に持ってきます。毎日、どれくらいの森が消滅しているか見当もつきません。温暖化で海が広がり、森が崩壊したら人間はどうするのでしょうか。宇宙にでも逃げられると言うのでしょうか。

「森と水の関係」、これを次回から書いていきたいと思っています。私は内装材に和紙を使います。和紙の職人さんから聞いた話で「森と水の関係」を考えました。つたない文章ですがお付き合いいただくと嬉しいです。

.....

10年前、WWF ジャパンで聞いた話では、地球には約40億 Ha の森林があって、それが違法伐採、討伐・乱伐で毎年400万 Ha ずつ減っていると言うことであった。法人にした2002年には、900万 Ha ずつ減っていると聞いた。由々しき事態になっている。つい最近、環境省では、10億本植林運動をしようと広報を始めた。 石村記

環境省 HP

活動のモットー : 急がず、楽しく、無理せず、休まず。ポチポチと・・・。
そして、沢山の参加で森はよくなる。

名 称 : さがみ湖・森づくりの会 : NPO法人緑のダム北相模・森林部会
事 務 局 : 154-0023 東京都 世田谷区 若林3-35-9
発行人 : 石村 黄仁 T&F 03-3411-1636
H P : <http://midorinodam.jp> E-mail : info@midorinodam.jp
協 働 団 体 : 神奈川県(企画部、環境農政部、県北地域県政総合センター森林部),

ご支援団体 : WWF ジャパン、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、東急コミュニティ

